

令和2年2月24日、29日

市民説明会

浅川清流環境組合

浅川清流環境組合 新可燃ごみ処理施設の概要

【建物概要】

- 構造：鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
- 基礎：杭基礎、直接基礎
- 階数：地上6階、地下2階

【設備概要】

- 処理能力：228 t / 日 (114 t / 日 × 2 炉)
- 処理方式：全連続燃焼式 (ストーカ炉)
- 発電設備：蒸気タービン発電機 5,190 kW

【施設の特徴】

- ◆ ごみ焼却の排熱を利用した発電を行うため、災害時でも自立した運転が可能です。また、発電した電気は本施設での使用分以外を売電します。
- ◆ 施設内は誰でも自由に見学できます。4階と6階の見学者エリアを一周することで、ごみ処理の流れがわかるようにします。
- ◆ 6階は、災害時に避難者の受け入れスペースとして利用することができます。また、備蓄スペースも確保します。



【試運転状況】

- 試運転とは、発注時に示した仕様を満たしていることを確認すると共に施設を安全かつ安定的に運転させることを目的に、一定期間かけて機械を稼働させ、実際にごみを燃焼させながら調整するもの。
- 12月末に水蒸気を利用してフラッシングを実施。
- ごみ処理能力は年間最大 65,720 t（災害廃棄物含）。
- 試運転期間で約 17,000 t のごみを焼却する見込み。（年間予定の約3か月分）
- 1月20日より3市すべての可燃ごみの受け入れを開始。
- 1月の受入れ実績
3,252 台（163 台/日平均）、3,964 t（198 t/日平均）
2月以降は、少し増えることが予想される。



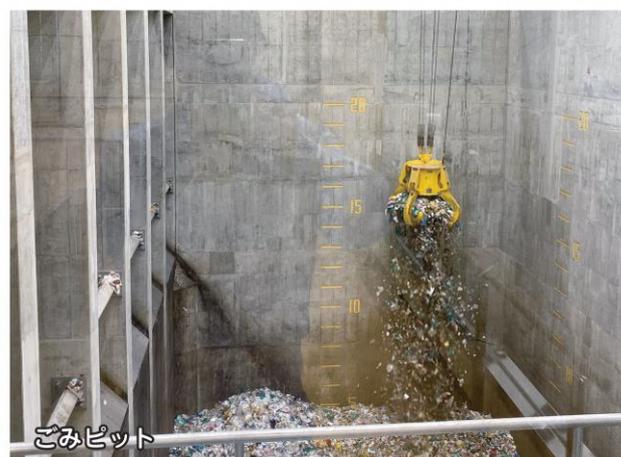
高圧蒸気配管内のちりやほこりを取り除くためのフラッシング（洗浄）には、水蒸気を使用しました。



ごみを燃やした後に発生する灰を採取し、成分を分析しています。



焼却炉の立上げや立下げ時には建物屋上から水蒸気が多く見えます。



ごみピットにためられたごみをクレーンで攪拌かくはんした後に、焼却炉に投入します。